

平成 22 年度 第 5 回瀬戸市環境審議会議事録		
日 時	平成 23 年 2 月 8 日 (火) 午前 9 時～ 10 時 50 分	
場 所	瀬戸市役所 4 階 大会議室	
出席者	審議会委員	委員 4 名 (欠席：石川委員、市川委員、玉木委員、水野委員)
	事務局	山田市民生活部長、高木環境課長、山内課長補佐、加藤環境保全係長、中村主事
次 第	内 容	
1 開会	<ul style="list-style-type: none"> ・開会の挨拶 ・欠席委員の確認 	
会 長	・あいさつ	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・要望書の提出があったことの説明。 ・環境基本計画案について市民説明会を開催することの要望であるが、計画策定後に、計画の周知・啓発に努める旨回答することを報告した。 	
2 議事	以下のとおり。	
議事(1)	答申について	
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ○前回審議から答申文案の作成に至るまでの経緯の説明 ○答申文案の確認 	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としては良いが、付帯事項 3 にあるような「議論の場」として、委員以外の市民や市民団体等からも建設的な意見がもらえるような取り組みが、「運動」として広がっていく必要がある。市民団体の意見を積極的に聞いていくという視点が不足していないか。 	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書には、パートナーシップによる連携や協働の取り組みが掲げられており、議論の結果は反映されていると考える。 	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経緯を考えると、市民団体はパートナーシップの取り組みには含まれてこない。 	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体も含めて広く市民から意見を聴くということは、付帯事項 1 「広く市民の参画が確保されるよう努める」ということに象徴されている。 	
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・付帯事項としては、このままで良いと考えるが、これからの市民参加のあり方は、進行管理の中でチェックをしていく必要がある。 ・市民参画の手法の一つとしてパートナーシップ型組織があるが、それ以外にも市民団体との懇談会などがあっても良いように思う。 	
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が主導権を持って会合を主催し、行政に出席を求めることもあっても良い。そのような時代になってきている。 ・委員の発言の趣旨は共有されており、答申文にも反映されているものと考ええる。答申内容を確定して良いか。 	
各委員	(異議なし)	
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・では、答申に移るが、市長来室まで暫時休憩とする。 	
議事(2)	答申	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまより、基本計画について審議会より答申をいたします。 	
会 長	(答申文を読み上げた後、交付)	

市長	<ul style="list-style-type: none"> 千頭会長はじめ、環境審議会委員の皆様におかれましてはお忙しい中、2年度にわたり第2次環境基本計画の策定に関して、ご審議いただきありがとうございました。 市としましても、いただいた答申に基づいて計画の推進を図り、取り組みをより一層充実してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。 <p>(公務のため、ここで退席)</p>
議事(3)	第2次瀬戸市環境基本計画の進行管理について
会長	<ul style="list-style-type: none"> 計画の進行管理について、事務局から説明を。
事務局	○資料の確認・説明
会長	<ul style="list-style-type: none"> 概要版について、緑に囲まれた素晴らしい都市という面だけではなく、抱えている課題を直接に感じてもらえる資料として、市全域の航空写真は掲載できないか。 概要版について、施策やプロジェクトを誰がやるのか、というメッセージが伝わりにくい。 行政だけが実施するものと捉えられてしまうと、ここまでの議論やパートナーシップ型組織の仕組みが実を結ばないので、表現などを工夫すべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 児童や生徒にも理解できる程度の内容だとは思う。 周知することよりも、実際に取り組んでいく事の方が重要である
副会長	<ul style="list-style-type: none"> パートナーシップ型組織の現状について、報告してほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市民組織については、設置に向けた準備会を7月と12月に開催した。新年度の早い段階で組織として設立することを考えている。 市民団体を含めた幅広い市民が関与する機会となるような仕組みにしたいとの意見も出ているが、その中核を担う市民が、現在の準備会のメンバーだと考えている。また、リーディングプロジェクトの具体的な取り組みを皮切りに進めていく予定である。 事業者組織は、34社と行政とで既に発足しており、レジ袋の有料化を継続事業としているが、17社28店舗での取り組みによって生じたレジ袋の収益の取扱いについて、具体的な検討を進めている。 また、環境配慮事業所認定制度の検討を重ねてきたが、本年度から制度をスタートさせている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 「環境にやさしい事業所認定制度」は、多くの事業者に意識を持ってもらう機会につながっている。 また、既にISO14001認証を取得しているような企業にとっても、地域の取り組みや活動に協力する機会となっており、これからも取り組みを進めたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> せと環境塾についての現状は、どうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・せと環境塾は、第1次計画の見直し時からスタートしている事業だが、昨年度からは、環境教育に携わってきた関係者の意見を取り入れつつ、事業を行っている。 ・本年度は、来年度以降のプログラム充実に向けて運営委員会を設置し、調整を行っている。リーディングプロジェクトとして想定されているように、市民・事業者と行政とが協働して運営していく方針である。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップ型組織やせと環境塾は、事業者や市民が、得意分野や知識、アイデアを持ち寄れる仕組みを作っていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書には、進行管理に関しては極めて一般的な記述にとどまっている。PDCAを具体化していくことが、環境審議会の任務でもある。 ・年次報告書は、行政だけで作成するのではなく、パートナーシップ型組織が関与できるような仕組みを作っていく必要がある。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書の作成状況はどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・作成できていない。条例上の責務であるため、現在、とり急ぎ作成を進めている。 ・市民・事業者との協働によって作成していくことも今後の課題だが、パートナーシップ型組織等の意見を聞きながら考えていく。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体でも、市民編集員による市民版の環境白書を作成している例がある。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別環境配慮指針の作成も一つの課題と考えるが、どのような進め方を考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民パートナーシップ型組織準備会でも議論したが、行政主導による押しつけにならないような手法を検討している段階である。 ・ただ、各地域の繋がりを活かして作成が進められている「地域力向上アクションプラン」というものがあり、地域緑化や防犯・高齢化対策などに取り組んでいるが、今後取り組みが進展して、地域の自然環境や生活環境に地域の問題意識が集まった時には、仕組みを提供していくことも考えられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次計画における地域別環境配慮指針の作成方法は、どのようなものだったのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の適正評価を行うための指針づくりを行うという行政側の需要が先にあり、様々な要素・環境条件の調査を業務委託しつつ、行政が机上で検討・作成したものを、各地域に対し説明・意見収集して作成した。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップ型組織の最初の取り組みとしては良いものと考えている。行政による支援は重要だが、行政が作成を要請するというアプローチでは、従来と同じになってしまう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全地区が一律に作成するというものでなくとも良いのではないかと。特別な環境問題を抱えているなど、関心が高い地域から、地域の課題の一つとして、取り上げられるようにしていくことが良い。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力向上に向けた取り組みとして、各地区がポイ捨てやふん害パトロールなどに取り組んでいる。ごみ減量などにも取り組んでいるが、防災や防犯なども課題である。時間がかかることではあるが、着実に進めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会推進会議では、2市1町から自主的に参加する市民によって、ごみ処理基本計画が策定されている。 ・ただ、市民だけではできないことも多く、行政・事業者との連携・協力体制が重要だと考える。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップ型組織についても、市民組織と事業者組織との連携は、将来的には必要である。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・若い市民が、意見を交換したり、様々なことにチャレンジしたりする場を、せと環境塾が作っていければ良い。せと環境塾の運営や講義を若い市民が担ってほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民パートナーシップ型組織準備会や環境審議会への参画を通して、関心を持てば、まちの環境問題も身近なこととして捉えられると強く感じた。多くの市民が、環境基本計画に対して関心を持てば、市の環境が良くなる。 ・市民団体や地域が催す報告会や勉強会などに、行政や環境審議会も協力して、若い市民が計画を知るための機会を作れるのが良い。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境基本計画を読む会」などの催しを市民が主催し、行政職員を招き、批判的な視点も含めて知る機会があっても良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自然ガイドボランティアに象徴されるように、身近な自然とのふれあいが重要である。海上の森は、県条例により保全されているが、今後もしっかりと守っていくことが必要と認識している。 ・せと環境塾の運営委員会へも参加しているが、海上の森センターの活用を通して、自然とのふれあいや緑の大切さを体感してもらいたい。 ・海上の森の整備に関して、企業によるCSRの取り組みとして、6社によって森林整備が行われているが、これらを含め、様々な活用を期待している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業者は、様々な面で、環境に対する取り組みを行いやすくなった。行政は、そういった地域の動きを察知できるよう、連携を図って欲しい。 ・市の環境は、法令の整備や事業所の努力によって、良くなってきている。今後も、事業者が取り組みやすい環境を整えて行くことが重要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書の表紙として、海上の森の写真を使用するとのことだが、砂防池は面白い風景ではあるが、人工的な要素が強く、今回の計画のイメージに沿わないのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートの環境シンボルとして上位にあり、里山の風景として採用したいと考えた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・海上の森にある砂防池は、「大正池」と呼ばれてはいるが、土石流によって堰き止められた川が作る自然風景である上高地の大正池と異なり、極めて人工的なものである。剥げ山からの土砂流出を堰き止めるための砂防池によって作られた風景であるが、誤解を招くと考える。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・かつてとは比べものにならないほど浄化された瀬戸川は、市の環境を象徴している。瀬戸川を中心とした航空写真はどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・馬が城浄水場の取水口は、どうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を象徴する風景を選びたいと考えている。また、子どもが川で遊ぶ風景と組み合わせ、将来の世代を象徴するものも取り入れる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を精査した上で、本編冊子・概要版冊子を完成させてほしい。 ・新年度には、早速、計画の実施と検証を行っていく。パートナーシップ型組織についても、早期に発足できるよう進めてほしい。 ・今後の予定については、どうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度以降は、年間2～3回の会議を予定している。 ・夏頃に、当該年度の取り組み等の実施状況の報告を行い、年末頃に、年次報告を行いたいが、詳細な日程は未定である。
4 閉会	閉会の挨拶
事務局 (市民生活部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・2か年、全9回にわたる審議をいただきました。千頭会長をはじめ委員の皆様には、大変感謝をいたしております。 <p>来年度からは、答申された計画の推進に当たってまいります。ご議論のとおり、行政だけでは推進は無理でございます。現代においては、市民、事業者、関係団体、次世代を担う子どもたちを含めた地域の方々と一緒になって、取り組みを進めて行くことが、大きな力になるものと考えております。</p> <p>委員の皆さまには、今後もお力添えをいただくことをお願いし、お礼のご挨拶とさせていただきます。</p>